

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100216		
法人名	アーネスト株式会社		
事業所名	グループホーム さくらんぼ A		
所在地	大津市大將軍1-4-19		
自己評価作成日	令和3年6月8日	評価結果市町村受理日	令和3年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 滋賀県社会福祉士会		
所在地	〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138		
訪問調査日	令和3年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日を笑顔かつ、自然体で普通に暮らせるように、暗い気持ちにならずに、困りごとに手助けをしながら一緒に暮らしていく。医療連携に関しては、医師、看護師と密に連携をとり、緊急時にも対応してもらえる。また、病院への紹介状が必要なときにも充分な連携がとれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が設立母体の「グループホームさくらんぼ」は開設して11年になる。【素晴らしきかな人生】「生きていて良かった瞬間」がつながるチームケアを目指します」と言う新しい理念の実現に向け、できる限り個別ケアを提供し利用者の思いを大切に、利用者本位のケアをすることで、日々利用者の笑顔を引き出そうとしている。職場の環境にも目を向け、派遣職員やパート職員もいるが、「同一労働、同一賃金」を検討中である。働きやすい、楽しい職場にするために、3項目の職場環境を整えるための目標を作り、ロッカールームに張り出して、職員の意識を高め、「しんどい時にしんどいと言える職場」にするべく、管理者が個々の職員の様子を見て、声をかけ話を聞くなど、様々な取り組みを展開している。利用者、家族の思いに沿って、医療連携の下、看取り介護にも力を注いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 10周年を期にひとつの節目として利用者と職員が思う素晴らしい一日だったと日々思い過ごせるように願いを込めて新しく理念を掲げ、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	新しくなった理念をミーティングのときに職員同士で唱和している。理念の捉え方については管理者と職員が共有し、利用者が気がねなく大きな声で笑ったり歌ったりして生きていて良かった瞬間が繋がるチームケアを全職員が実現に向け努力している。	グループホームの新しい理念【「素晴らしきかな人生」「生きていて良かった瞬間」がつかがるチームケアを目指します】をできる限り個別ケアを提供し尊厳ある暮らしをめざすことで実現しようとしている。	パンフレットを作成中である。理念を明示したパンフレットを作ってほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、氏神神社の初詣御火焚祭に神木申込をして参拝し、日常的に地域と交流している。	自治会の行事はコロナ禍のためにいずれも中止されている。再開された時には参加する予定である。氏神神社の初詣は参拝している。散歩中に近隣の住民と出会い、挨拶を交わすこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学時、入所可否に関わらず認知症同居家族の悩み事を聞き実践を通じて知り得た情報を提供し、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により時短の運営推進会議や書面で開催を行っている。書面は一方的に定期的議題を発信しているが、時短運営推進会議に於いては限られた時間の中で家族の方と共に話し合いを行い、意見を聞いて、サービス向上に努めている。	2か月に一度開催されているが、コロナ禍により書面による開催となっているため、事業所の一方的な報告に留まっている。家族の要望を知るためアンケートを実施し、76.4%の回答を得た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大津市介護保険課には、管理者交代報告や事故対応報告を行い、災害対策や介護方法の報告・相談は包括支援センターに行っている。	事故対応報告や相談は大津市の介護保険課にし、災害対策の報告、相談は地域包括支援センターに行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全利用者に半年間をかけて安全安眠確保を条件に検証を実施。管理者以下各ユニット担当職員全員で協議を行い、家族希望の方も含め5名においては止む無くベッド柵による拘束実施の決定を報告し承諾を得る。その後も最小限度の拘束を行い、解除することを目標に職員全員で取り組んでいる。	安全と拘束は別のものであるという考えの下、拘束「0」を目指して実践している。半年間の検証を行い、拘束は最小限度にして、解除する方向で取り組んでいる。接遇や言葉使いについても大津法務局の人権口座を受けるなど取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な言葉の中にも虐待の対象になることもある等、内部研修だけでなく大津法務局の人権研修(出前講座)を受け、介護者の意識向上を図り、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大津法務局の成年後見制度(出前講座)を受け、必要利用者には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族の疑問点や不安を尋ねて、理解、納得を図れるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者サービスの質の向上と運営に関する疑問点など項目に入れて家族アンケート調査を実施。結果を家族に送付し、現時点での満足度と改善が必要と思われる点を明確にしてさらなる資質の向上を図る。	コロナ禍にあつて、家族の面会も自粛して頂いており、この機会に家族アンケートを実施して思いを聞かせていただいた。76.4%の回答があり、意見を参考に改善を目指して取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案を管理者に聞く機会を設けてもらい、反映させている。 現場正職員と月に一度のミーティングを実施している。	管理者が、職員の思いを聞く機会を作り、その思いを運営に反映している。3項目の「見える目標」をロッカーに張り出し、しんどい時にしんどいと言える、働きやすい職場環境にすることを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、介護職員処遇改善加算を取得したことで経験や資格に応じた賃金体系の整備を行い、イキイキと長く働ける職場づくりに努めている。また育児休業の取得を希望する職員に対して円滑な育児休業の取得及び職場復帰を支援するため育児休暇復帰プランを作成し、措置を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、技術取得を希望する職員には出張講習セミナー受講の機会を設け介護技術の向上に努めている。 プリセプター制度確立に向け互いに学ぶ。(指導している。)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により相互訪問は行っていないが電話等で相互に情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に築く信頼関係は正面から同じ高さで目を合わせて心に寄り添うケアを実践している。認知症の人が言葉を紡ぎだすには時間がかかるが心の時間に合わせて言葉が発せられるまで待つ聴く努力をして信頼感が生まれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族が必要としている支援、また不安に思う事を見極め、本人と家族の意向を聞き、最大限努力して安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時と年1回のサービス担当者会議(コロナ禍により電話と書面)を開催し、本人と家族の要望をサービス計画書に明記し、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	forではなくwithであるという考え方で支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒にあって、本人の思いを大切に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がサークル活動をしていた仲間の面会には場所を提供し、コロナ禍に於いては手紙や電話で状態確認され、本人が手紙を書けないために職員が代筆して関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍にあり、家族との面会もガラス戸越しに実施するなど自粛している。利用者の旧知の友人との交流は、手紙や電話で継続できるように支援している。家族には利用者の写真を送り、喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ユニットのレクリエーション活動で輪になって職員も一緒に歌ったり、難聴者にはホワイトボードでコミュニケーションを図り、利用者同士の交流を図り支え合えるように支援に努めている。笑いヨガを月2回定期的に外部から講師を迎えて楽しく健康体操の指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所した利用者が病院に入院している情報入手し、家族に電話をして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や就寝時等、で気分が良い時などを見計らい本人の思いに近づけるように努めている。	利用者自身に決定権があることを職員が心し、意思を汲み取るような言葉かけを心掛けている。本人の意思を尊重しまずその意向に同意することから始めている。利用者の思いは個人ファイルに記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話を聞いたり、また、介護記録等でこれまでの暮らしの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の健康状態や一日の過ごし方の観察と記録を行い、また一人一人に介助に当たることで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	年に1回のサービス担当者会議はコロナ禍により書面開催で行っている。モニタリングは今年度4月よりモニタリング職員担当を順番制にして2か月毎に見直しを行い、より現状に即した介護計画を作成している。	利用者ごとに担当職員が決まっているが、すべての職員が全利用者を知るために、今年4月から担当を2か月ごとに交代する形にし、2か月に一回モニタリングを行って、現状に即した介護計画になるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や健康の状態の観察を行い、個別記録に記入し、必要な事柄などは申し送りを行い、情報を共有して、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	若年性認知症入居者の認識力の低下は、強いストレスが内在して混乱される等、高齢者のアルツハイマー型認知症には見られない症状に対して時には言葉によらないコミュニケーションの方法でも取り組んでいる。家族の希望で職員による散髪、染髪を施設内で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加して、地域のなかで貢献していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人の希望を最優先し、かかりつけの病院には家族対応で受診できる体制をとっている。	2名が認知症専門医や特殊外来を家族と共に受診している。利用者は週1回嘱託医の往診を受けている。歯科医の往診は2週間に1回、訪問看護師は週1回の訪問で、利用者の健康を管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師に利用者の状況を伝えて相談し、処置を受けたり、また適切な受診や看護等の指示やアドバイスをうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は見舞いに行き利用者の様子を把握し、病院関係者と情報交換につとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、早い時期から家族の意向を聞いて看取りに関する同意書を交わしており、医師と連絡を取りながら、ターミナルケアが充分にできるように支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応にかかる指針」では、グループホームの看取りに対する考え方が細かいところまできちんと整理して説明されている。本人や家族の思いに沿って、嘱託医、訪問看護師等と連携して看取りが実施されている。	看取り期に入っても、常時付き添えない家族に介護の実態を知って頂くために、1冊のノートに介助したことを記録し利用者の枕元に置いておくのも一つの方法である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は、すぐ医師と管理者へ連絡をして急変時のマニュアルに添い対応しているが、連絡がつかない場合は現場の判断で救急搬送の要請を行い、手遅れにならないように対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導や地域の自治会、民生委員の方々の応援を得て定期的な避難訓練を行っている。地域の自治会に緊急連絡網のご協力を頂き、避難訓練時には自治会の方も参加協力してもらっている。コロナ禍により内部のみで年4回自主訓練に取り組んでいる。	避難訓練は、コロナ禍にあり消防署も立ち入りを自粛するということで、内部で3か月に1度実施している。自治会が自発的に緊急連絡網を作成しており、連携が取れている。夜間想定はカーテンを閉め、夜勤職員だけの想定で実施されている。	冬季になると夕方から暗くなるので、その時期にも一度実施して欲しい。備蓄も考慮してほしい。職員から抜き打ちで訓練してはどうかという意見が出たと聞く。検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部接遇研修を行い、スピーチロックに気を付けて利用者を人生の先輩として敬い敬語で接するように心掛けている。大津地方法務局より出前講座「高齢者の人権問題」の講義を受ける。高齢者の人権に関する知識を深めることができ、ケアの質を高めている。	利用者の言葉をまずは受け入れることから始めようと話し合い、実践に向けて取り組んでいる。内部接遇研修や、人権講座など多方面から高齢者の尊厳について考える機会を作り、意識改革に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からよく観察し、できるだけ本人の思いに添うように努力している。言葉かけにもこちらが先に発言するのではなく必ず「？」で終わるよう実践し、聴くことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の情緒が不安定なときや興奮ぎみの時は時間を気にせず職員が側についてこまめに対応し落ち着かれるよう支援を行い、一人ひとりの安心を大切に必要な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えなど本人が用意できる人には自分で用意してもらっている。入浴後の整髪では本人の好みを聞いてドライヤーで髪形を整えておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けでは、その時の体調や気持ちを良く観察してお手伝いして頂き、感謝の気持ちもまじえて楽しく行っている。	食材は管理者がまとめて購入している。調理は職員全員が日々交代で行っている。調理の経験がある利用者が積極的に調理に関わってくださるが、疲れがたまらないように気を付けて見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人のADLや食事動作を考慮して、自分で食べたいという意欲を大切に必要の介助を行い、食事量、特に水分摂取量については、好みも考慮し、状態に応じて頻りに補給を行い、記録をして摂取量が確保できるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指導を受け本人が歯磨きをした後職員が口腔清掃等歯磨きの仕上げをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意を大切に、歩行困難な利用者もトイレでの排泄を行うことで排泄の自立にむけた支援を行っている。	自立している方は2名で夜間(常夜灯があり、明るい)もトイレを使用されている。個人の記録には排泄の記録が細かく記入されており、本人の意思を尊重しながら声掛けし、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、日頃より、調理等の工夫や水分摂取量にも気を付けて個々に応じて取り組んでいる。訪問看護師からの指導による腹部便秘マッサージを施行している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間の追われることなく、ひとり一人がゆっくり入浴を楽しまれるよう、1日3人までを入浴してもらい、体調や外出予定、また予定時間外の入浴など、希望を尊重し、入浴を楽しんでいただいている。入浴剤を4種類用意し、選んでもらっている。	週2回は入浴できるように、一人一人の思いに沿いながら、一日3人をめどに入浴して頂いている。4種類の入浴剤をそれぞれ楽しんで使っておられる。看取り期の方にも可能な限り入浴して頂いている。	全員支援が必要とのことであった。利用者にとっても職員にとっても安心安全な、リフトバスの使用を検討してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安全を必須条件にひとり一人の癖や生活習慣に配慮してベッドの向きを変えたり環境を整えて安心して良眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の薬の説明書を読み、症状の変化を確認しながら服薬支援を行っている。毎週の往診時に主治医に相談を持ち掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな人は集まって季節毎の歌集を開いて歌を楽しんだり、塗り絵の好きな人にはきれいに塗った作品を展示したり、ときにはゲームに参加して持前の勝気を発揮してそれぞれに楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により戸外の散歩は自粛し、外出支援は病院受診に留まっている。家族の了承を得ている。下肢筋力低下の人にも園庭で花壇を愛でたり外気を浴びてお茶を楽しんだりしている。	法人グループ内で自動車を共有し外出支援を行っているが、コロナ禍により遠出の外出は控えている。桜の時期の近くの桜並木の散歩や近隣の散歩は可能な限りしている。廊下を歩いたり庭の草抜きをしたりされる方もあるが、下肢筋力の低下は否めない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ADLのが低下が進行し、お金の所持や使うことの支援は難しくなってきたが、入所費用の心配を話す入居者には安心されるよう説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	担当職員から家族に近況報告のお手紙を年4回出しているが、その時に名前等書ける入居者は得意の塗り絵やお手紙も入れて出しており、家族からもお返事が来て、大切に持っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりは施設の中で特に配慮し、音楽は視覚聴覚に訴え、壁には季節の物で飾ったりして季節感も取り入れ利用者の快い空間作りに工夫している。また、夜間常夜灯においても居室への光の「もれ」に配慮し、睡眠の妨げにならないようにしている。	廊下には利用者のにこやかな笑顔の写真がふんだんに飾られ、利用者が作られたちぎり絵の作品もいっぱい飾ってある。明るい温かい雰囲気の空間になっている。一つのユニットには看取り期に入った方のためのベッドが設えてあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間における居場所づくりは食事の席、団らんの折には孤立しないように気の合う同士隣席にしてお喋りを楽しんだり、眠くなったら居室で休み、自宅で暮らしているように、出来る限り個別ケアを提供し尊厳のある暮らしを目指している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の配慮は、本人はもとより家族とも過ごし易いように、好みの写真や家族の写真を貼ったり、カレンダー等で居室の配慮を工夫している。	柵のない、低床のベッドが壁から離して置かれ、それだけで部屋の雰囲気を温かく感じた。使い慣れた家具が持ち込まれ、個性豊かな部屋になっている。クローゼットの押入れがあり、使いやすいと思われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人が自立した生活ができるよう、口腔ケア時には能力に応じて出来ること、自分のタオルや自分の歯ブラシを自分で取り自分で歯磨きをし、うがいの人はコップが自分で取れるよう、工夫し支援している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	コロナ禍の影響で外出自粛のため朝の散歩ができなくなり、朝日を浴びることや外の景色を見たり、季節を感じたりすることができなくなり、近隣の人たちとも顔を合わす機会が無くなった。	外に出て風に当たったり、外の景色を見て季節を感じたりして精神の安定を図り、近隣の方とも出迎え挨拶を交わしたりして利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう感染対策を講じて無理のない実施を目標とする。	①10時にBシフト勤務者が出勤して職員が揃ったことを確認。 ②入居者のバイタル確認 ③マスク、帽子、アルコール消毒、感染対策実施 ④帰設後手洗い、アルコール消毒、水分補給の実施 ⑤記録	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	○	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
			②利用者へサービス評価について説明した
		○	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
			④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			⑤その他()
2	自己評価の実施	○	①自己評価を職員全員が実施した
		○	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		○	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		○	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		○	⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	○	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		○	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		○	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		○	④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	○	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
			②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
			③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
			④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		○	⑤その他()
5	サービス評価の活用	○	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
			②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
			③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		○	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		○	⑤その他()